

いもう 葦毛通信



カキラン

2021年10月13日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 115

1、葦毛湿原が国指定天然記念物になりました！

葦毛湿原が2021年10月11日に官報に告示され、国指定天然記念物になりました。6月18日の答申後、葦毛湿原を訪れる方が多くなり、今も土日は大勢の家族連れで賑わっています。

葦毛湿原では秋の花が満開で、シラタマホシクサは盛りを過ぎましたが、現在は一の沢でサワギキョウが周辺に広がって大きな群落になり、スイランも数が増えて湿原のあちこちで咲き始めています（10月12日現在）。今年はサワヒヨドリが湿原の各地で増えて葦毛湿



一の沢のサワギキョウ群落（2021年10月2日）

原の西側ではこれまで見られなかったような大きな群落になっています。そして11月にはヤマラッキョウやホソバリンドウが咲き、葦毛湿原の花のシーズンが終了します。

2、2021年度モニタリング報告ー5

1) O地点

O地点はイヌノハナヒゲの除去実験を行ったところです（葦毛通信 No. 107 参照）。下写真右の手前側は根を除去したところ、奥と左の写真は刈り取りだけで根を除去しなかった実験区です。根を除去しなかったところは昨年と同じように全体がイヌノハナヒゲになりました。根を除去したところからは、トウカイコモウセンゴケ等の湿生植物が多く見られ



O地点北東から（2021年10月2日）



O地点南東から（2021年10月2日）

るようになったので、今年はイヌノハナヒゲの根を除去する実験区を広げるつもりです。

3、ウシガエルの駆除！

葦毛湿原では旧水田を復元したQ・R地区では様々な植物が出現し、R地点⑥ではカワムツやシュレーゲルアオガエルのオタマジャクシも確認されています。しかし、在来種ばかりでなく、特定外来生物であるウシガエルも見られるようになりました。ウシガエルは体長5～8cmほどの幼体とオタマジャクシが確認されています。

ウシガエルは葦毛湿原の下流約 500mにある長尾池から上がってきたと思われます。これまでも葦毛湿原の中心部で何度か確認されていましたが定着はしていませんでした。山の中に拡散していく途中に葦毛湿原内で見られたものと考えています。しかし近年、小さな池状にして水量が多くなったA地点ではオタマジャクシと幼体が見られるようになり、Q・R地点でも復元した水田である③・④・⑥で見られるようになりました。旧水田③・④・⑥は一年中水がある状態で維持していくつもりですので、このままにしてウシガエルが定着すると在来種の生物にとって脅威となるので駆除することにしました。

1) 籠わなの設置

最初に、疑似餌を使って釣ることを試しましたが上手くいきませんでした。そこで、カニを採るためのカニ籠を使ってわなを作りました。籠わなは7月26日から実験的に小型のものを一つと丸型のものを一つ設置して様子を見ました。この時は小型のわなにカワムツが2匹、丸型のものにシュレーゲルアオガエルのオタマジャクシが2匹入り（葦毛通信 No. 113 参照）写真を撮ってから逃がしましたが、ウシガエルは入りませんでした。そこで、大型のカニ籠を使ってわなを作ることにしました。



ウシガエルの籠わな（2020年7月31日）



ウシガエルの籠わな（裏側）



籠わな設置状況（2021年7月31日）



捕獲されたウシガエル（2021年8月10日）

カニ籠は鉄製の枠に網が被せてある構造で、長さ約 60 cm、幅約 40 cm、高さ約 20 cmで短辺の両側が内側にV字状になっており、この間から入ると出られないようになっています。カニ籠は釣具店で 700 円程度で売っています。ウシガエルは生きた餌しか食べないので、エサは入れず、隠れ家として利用するように、側面と上面に寒冷紗を二重にして被せて暗くなるようにしています。設置にあたってはウシガエルが呼吸できるように全部を水没させず、1/3 程が水面から出る深さの岸辺に設置しています（前頁写真）。

籠わなは旧水田③・④・⑥の3か所に設置し、これまでに7匹のウシガエルを捕獲して駆除しました（10月7日現在）。大きさはいずれも体長約5～10 cm程の幼体です。籠わなは10日に1回程度見回るだけなので、手間がかからないのが利点です。今後は、このまま順調に駆除が進むのか、あるいはウシガエルが学習してわなに入らなくなるのかを観察していくつもりです。

2) 混獲された生物

籠わなにはウシガエル以外に、アズマヒキガエルとモクズガニが入っていました（10月6日確認）。アズマヒキガエルは体長 10 cm程、モクズガニは甲羅長 5 cm程の若い個体でした。このように混獲された生物は写真を撮ってすぐに逃がすようにしています。アズマヒキガエルは逃がした直後に草の中に潜って見えなくなりました。このような状態では、葦毛湿原の中にいたとしても見つけることは困難です。



混獲されたアズマヒキガエルとモクズガニ（2021年10月6日）



モクズガニ♀（腹側）

旧水田脇の水路に逃がしたモクズガニ

葦毛湿原内ではアズマヒキガエルは林縁部に積み上げた木の根の中で越冬していた個体

が確認され、2 月末頃には産卵のために周辺の山から集まってきます。森の林床部にいるカエルなので水を入れた水田の籠わなに入るとは思っていませんでした。

葦毛湿原では沢沿いでサワガニを何度か見ていましたが、モクズガニがいるとは思っていませんでした。葦毛湿原でモクズガニが確認されたのは初めてだと思います。メスの若い個体でしたが、モクズガニは雑食性ですが植物食が多いといわれているので水中に堆積した落ち葉を捕食しているのかもしれませんが。モクズガニは成熟後、海に下って産卵するとされています。葦毛湿原の下流には溜池である長尾池があります。海に行くには長尾池を通過して水田の水路沿いに行かなければなりません。葦毛湿原から海岸までは 10 km 以上あるので大変長い道のりです。今回見つかったモクズガニもいずれは海に戻って無事産卵できることを祈っています。

Q・R 地点の旧水田は、50 年ほどは水田としては使われておらず、乾燥した環境にあったと思われるのですが、水を入れて半年ほどで様々な生物が出現したことに驚いています。

4、コオニユリの人工授粉

コオニユリは F・L・O・Y 地点で開花しました。昨年開花したものは種子ができなかったので、ポリネーターが来ておらず自家受粉しないと考え、今年は人工授粉を行いました。花は昨年の写真ですが、下写真中は F 地点のコオニユリで、人工授粉できなかったのが結実しませんでした。下写真右は L 地点のコオニユリで昨年は開花しましたが結実しなかった個体です。今年は昨年より大きくなり、花の数も多くなり 3 花が結実しました。花は 7～8 花咲きましたが、結実したのは下の 3 花だけでした。これは、上の花に人工授粉ができなかったのが原因だと思います。残念ながら人工授粉は 7 月 28 日と 8 月 1 日の 2 回しか行えませんでした。コオニユリは下から順番に咲いていきます。つまり、各花のオシベとメシベが熟する時期がずれているので、継続的に何度も人工授粉を行う必要があるということだと思います。昨年は開花しても種子ができなかったのですが、今年は人工授粉して他家受粉すれば結実することが分かったので、来年は開花の初めから終わりの時期までできる限り多く人工授粉を行いたいと思います。



昨年のコオニユリ（2020 年 7 月 22 日）



結実しなかった個体



結実した個体